

半世紀前の徳島で、徳島大学付属小学校に通う女の子のほとんどがピアノやお絵描き、バレエなど芸術系の習い事をしていた。

鎌田真由美さんはバレエ。

「初めてバレエ教室に行ったとき、先生に『才能がない』って言われたんです(笑)。脚が内股で、バレリーナには向いてない。それを分かった上で、バレエがやりたいなら教えますよって」

小学校高学年のとき、父親が大阪に転勤になり単身赴任する。子煩悩な父親は、休みの日には徳島から娘を呼んで宝塚を見に行った。

「こんなすごい世界があるんだと夢中になりました」

高校時代は、ツカガールに憧れるだけでなく、踊り、歌、演技を通じて何かを表現し、伝える表現者になりたかった。

そして劇団四季への入団を希望。

「でも父が反対でした」

役者になったからといって、将来食べたいのかどうかわからない。とにかく大学に行った方がいいという父親の言葉に従い、進学。

「父は絶対的な存在でした(笑)」

東京での一人暮らしにワクワクしていると、今度は母親から注文。

「東京で一人暮らしが心配だからと、寮に入れられました。母がクリスチャンだったので、教会系の規則の厳しい寮です」

どんな劇団四季が遠のくような思いを抱えている中で上京。何と、寮のある参宮橋は、当時の劇団四季の場所。

「聞こえてくる会話が劇団員らしき人で、私も絶対に劇団四季に入りたいという思いが強くなりました」

思い立つとまっすぐ突き進んでしまいう鎌田さん、研究生のテストを受け、合格。

「両親に大学を中退して研究生になりたいと話すと、父は退学ではなく休学にしろと、と。研究生のうちに昇格試験に落ちてクビになるかもしれないことを考えろと言われました。でも母は違って、四季に行きたいのなら、退路を断った方がいいと言ってくれたんです」

結局、大学を辞め、研究生に。

「朝8時から夕方の5時まで、歌やセリフ、ダンスだけでなく、日舞などいろいろなエンターテイメントのレッスンを

がびっしりでした」

3年目の夏のこと。オーディションを描いたミュージカル『コーラスライオン』の出演者をオーディションで選ぶことが決まった。まだ研究生なのでオーディションは受けられなかった

